資料１

深掘り！　聚楽第

京都市考古資料館　　山本 雅和

１．聚楽第の沿革

・豊臣秀吉が京都における拠点として造営した城郭
　内野（平安宮跡）を中心に占地（現在の上京区から中京区）

・名称の由来
　「長生不老の樂（うたまい）を聚（あつ）むるものなり」『聚楽行幸記』→「聚楽」
　「彼はこの城を聚楽（juraku）と命名した」『日本史』
　「第（てい）」＝屋敷・邸宅→なぜ「聚楽城」ではないのか？

・構造の概要
　内郭（本丸・北之丸・西之丸・南二之丸）・外郭を備えた大規模な平城
　中枢部東側を中心に多数の武家屋敷が造営される

・略年表

天正10年（1582）	本能寺の変・山崎の戦。豊臣秀吉、山崎城を築く。
天正11年（1583）	秀吉、大坂城の築城を開始。
	秀吉、京都に妙顕寺城を築く。
天正14年（1586）	秀吉、聚楽第の築城を開始。
天正15年（1587）	９月、聚楽第完成。秀吉、大坂から移る。
天正16年（1988）	後陽成天皇が聚楽第へ行幸。
	京都の町割りを整備（天正地割）
天正18年（1590）	秀吉、聚楽第にて茶会を開催。
天正19年（1591）	秀吉、甥の豊臣秀次に関白の地位とともに聚楽第を譲与。
	千利休、聚楽屋敷にて自害。
文禄元年（1592）	後陽成天皇が聚楽第へ２度目の行幸。
	秀吉、伏見指月に隠居屋敷を造営。
文禄２年（1593）	指月城拡張に着手。
文禄４年（1595）	秀次失脚、高野山にて自害。
	８月、聚楽第を破却、資材を伏見城へ運ぶ。
慶長元年（1596）	慶長大地震で指月城損壊。秀吉、新たに伏見木幡山に築城（木幡山城）。
慶長２年（1597）	秀吉、豊臣秀頼のための京都新城の築城を開始。
慶長３年（1598）	秀吉死去。

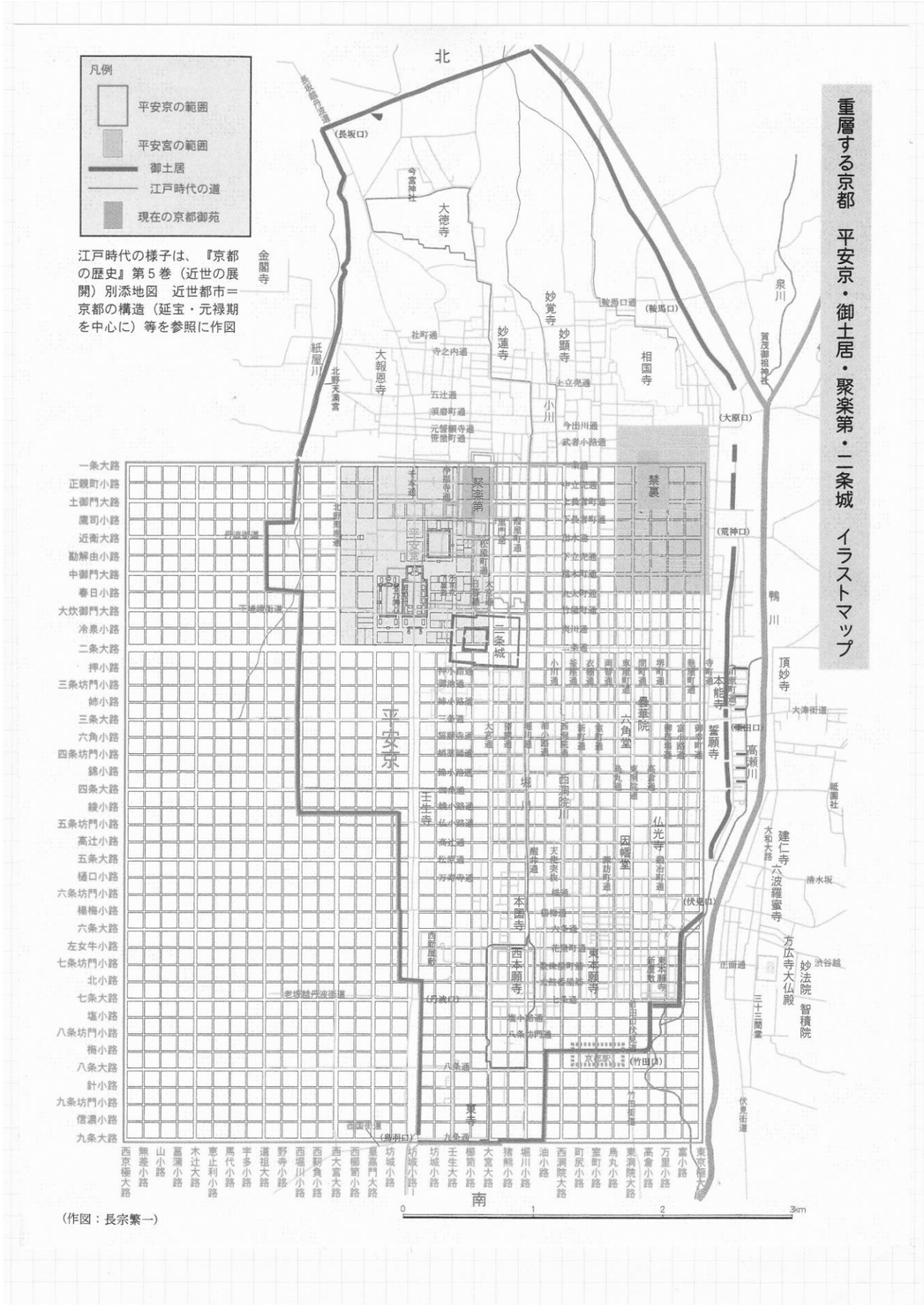


図１　重層する京都の遺跡

２．聚楽第の復元研究

・研究の特徴（復元の難しさ）

存続期間が短い→記録が少ない

豊臣秀吉が破却→痕跡が残りにくい

豊臣政権が滅亡→記録が少ない

推定地は市街地→大規模な発掘調査が困難

・研究のあゆみ

名倉希言『豊公築所聚楽城趾形象』（1843年）

京都府史蹟勝地調査会（西田直二郎）による調査（1920年）

※地形、地名、文献史料、絵画資料、遺跡調査成果などから研究がすすめられる

①地形

・推定地は全体的に北から南に向けて傾斜する

・一条通北側に高低差

・土屋町通沿いに南北方向の落ち込み

・下立売通北側に東西方向の落ち込み

②地名

・道路名

黒門通＝本丸東側の大手門（鉄板貼りの黒鉄門）前の南北道路

裏門通＝本丸西側の裏門前の南北道路

日暮通＝日暮（ひぐらし）門前の南北道路

・町名

須浜町・高台院町・山里町・東堀町など＝城内の施設

小寺町(黒田官兵衛)・飛騨殿町(蒲生氏郷)・藤五郎町(長谷川秀一)など＝武家屋敷

番町＝聚楽第に勤めた武士たちの宿舎

③文献史料

・大村由己『聚楽第行幸紀』

豊臣秀吉の御伽衆　豊臣政権の業績を広く発信

聚楽第行幸（天正16年）の詳細な記録（行幸の翌月に作成）

・ルイス・フロイス『日本史』

キリスト教宣教師（ポルトガル人）

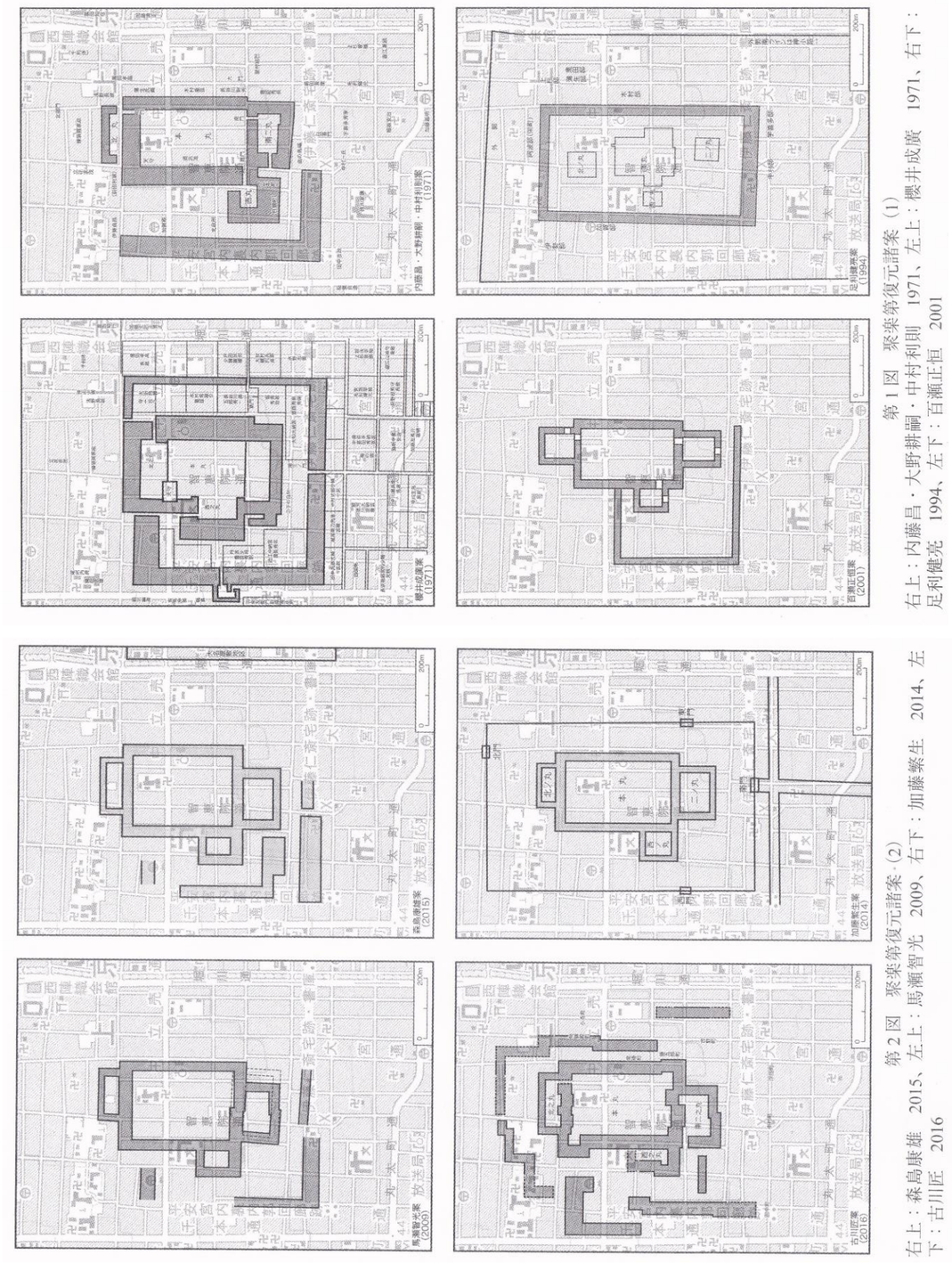
聚楽第の築城過程や聚楽第行幸（天正16年）などについて記述

・駒井重勝『駒井日記』

豊臣秀次の祐筆

「聚楽本丸石垣之上壁之廻間数」「聚楽 柵木通間数」（文禄４年４月10日条）

＝聚楽第の堀・周囲の柵の長さ（距離）の記録



第１図　聚楽第復元諸案（1）
右上：内藤昌・大野耕嗣・中村利則　1971、左上：櫻井成廣　1971、右下：足利健亮　1994、左下：百瀬正恒　2001

第２図　聚楽第復元諸案（2）
右上：森島康雄　2015、左上：馬瀬智光　2009、右下：加藤繁生　2014、左下：古川匠　2016

図２　聚楽第の復元諸案（山田　2018）

④絵画資料

・「山城 聚楽」『諸国古城之図』（広島市立中央図書館蔵）

資料２

広島藩浅野家に伝来した城絵図集。江戸時代前期の各地の城跡の彩色平面図117枚からなる。
本丸・西之丸・南二之丸の３つの郭。各郭外側に水堀。長方形の外郭の四方に門。

・『洛中洛外地図屏風（京都図屏風）』（個人蔵）
寛永年間に成立した四曲一双の屏風仕立ての絵図。内郭の形状を京都の街並みに図示した平面図。
南北に細長い本丸に北之丸・西之丸・南二之丸が取り付く。各郭外側に堀。建物の表現はない。
本丸北堀は一条通南側、東堀は大宮通の真上、南堀は下長者町通北側に位置する。

・『聚楽第図屏風』（三井記念美術館蔵）
聚楽第を描いた最古段階の六曲一双の屏風仕立ての絵画。二扇目・六扇目に不整合あり。
内郭は東面・南面・西面の水堀と乱石積みの高い石垣に囲まれる。東面に土橋、西面に懸橋。
瓦葺の天守・櫓などの大型建物。檜皮葺の殿舎群＝二階建ての東西棟は行幸御殿か？
外郭東門、築地塀に囲まれた屋敷（「松嶋ししう」＝蒲生氏郷の貼札）。

・『聚楽第行幸図屏風』（堺市博物館蔵）
17世紀初めに描かれた二曲一双の屏風仕立ての絵画。左隻と右隻は連続しない。
内郭は水堀と乱石積みの高い石垣に囲まれる。外周を後陽成天皇の聚楽第行幸の行列が進む。
内郭中央部に檜皮葺の殿舎群。瓦葺の天守・櫓は小さく描かれる。
築地塀に囲まれた瓦葺建物や庭園を備える屋敷。櫓門のある屋敷は豊臣秀次邸か？

・『洛中洛外図屏風』（尼崎市教育委員会蔵）
聚楽第と二条城を同時に描く六曲一双の屏風仕立ての絵画。17世紀初頭の原画を再構成か？
内郭は東面・北面の水堀と乱石積みの高い石垣に囲まれる。北面に懸橋。
内郭北西部に瓦葺の天守・櫓、南部に檜皮葺・中央部に柿葺の殿舎群＝内郭の描写が詳細。
中立売通に行幸行列。通沿いには檜皮葺や柿葺きの武家屋敷が建ち並び、町屋は描かれない。

・『御所参内・聚楽行幸図屏風』（個人蔵・上越市立総合博物館寄託）
寛永期以降に製作された六曲一双の屏風仕立ての絵画。行幸行列に加え秀吉の参内行列を描く。
内郭は東面・南面の水堀と乱石積み？の石垣と樹木に囲まれる。
内郭北部に瓦葺の天守、中央部に龍の飾り物がある檜皮葺建物などを描く＝虚構描写との指摘。
外郭に東門（鉄板貼りの表現）・南門。東門の北側・南側に武家屋敷。堀川に立派な懸橋。
下長者町通・中立売通沿いには本瓦葺・置石屋根の二階建ての町屋が建ち並ぶ。

・『探幽縮図　聚楽第行幸図屏風縮模』（東京藝術大学大学美術館蔵）
17世紀中頃に原図の屏風を縮写した巻子装の素描画。鳳輦・秀吉の乗る牛車などの部分図を併描。
内郭は東面の水堀・石垣、柵に囲まれる。
内郭には北面に天守？・瓦葺の櫓などの建物。
行幸に随行する公家・武家の名前の注記。通沿いの建物の詳細は不明。

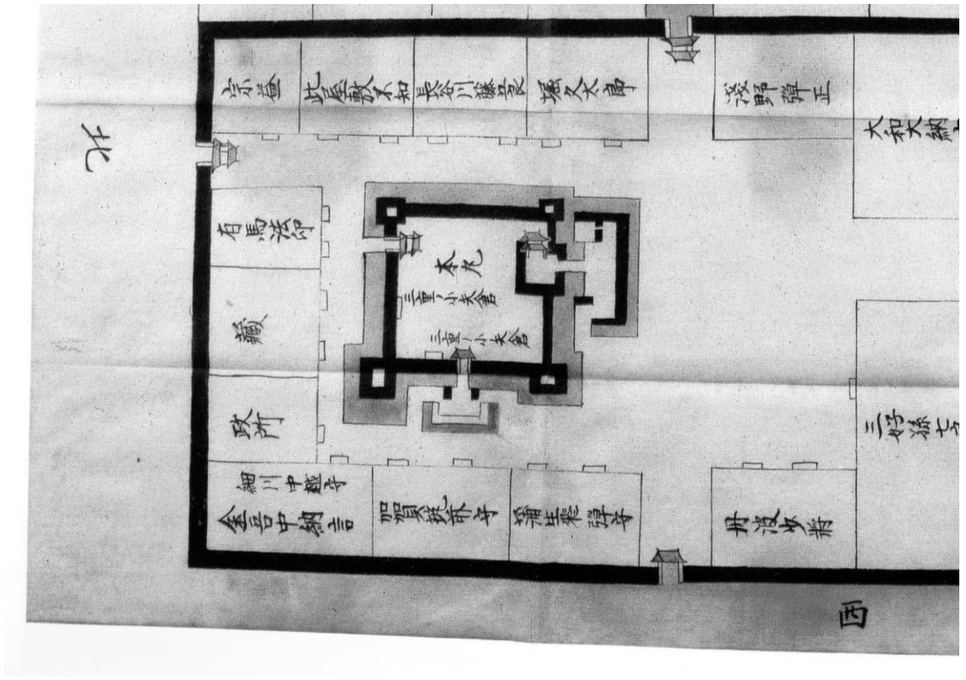


図３　「山城　聚楽」『諸国古城之図』（部分　広島市立中央図書館蔵）

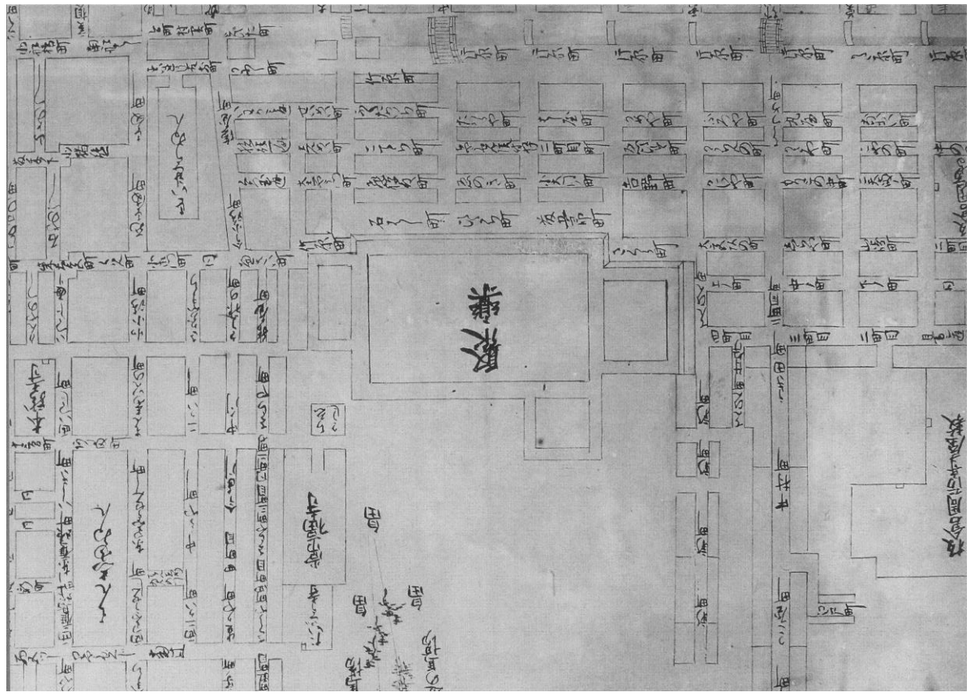


図４　『洛中洛外地図屏風』（部分　個人蔵）

資料３

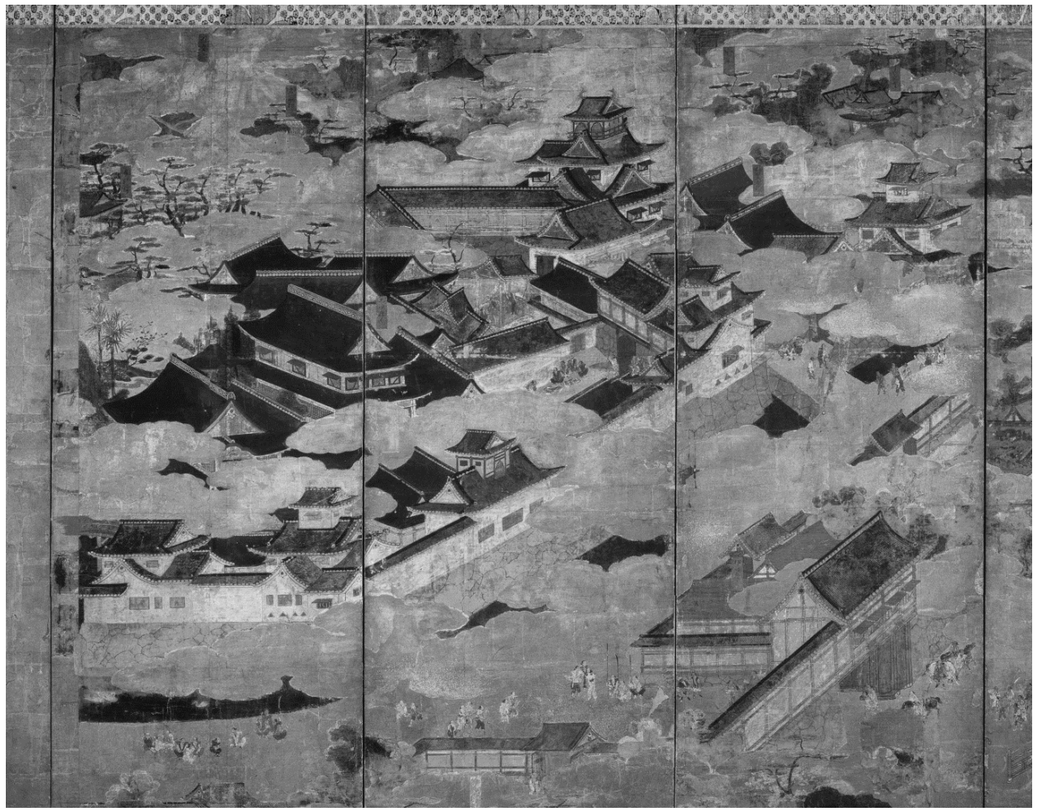


図３　『聚楽第図屏風』（部分　三井記念美術館蔵）

図４　『聚楽第行幸図屏風』（部分　堺市博物館蔵）

資料４

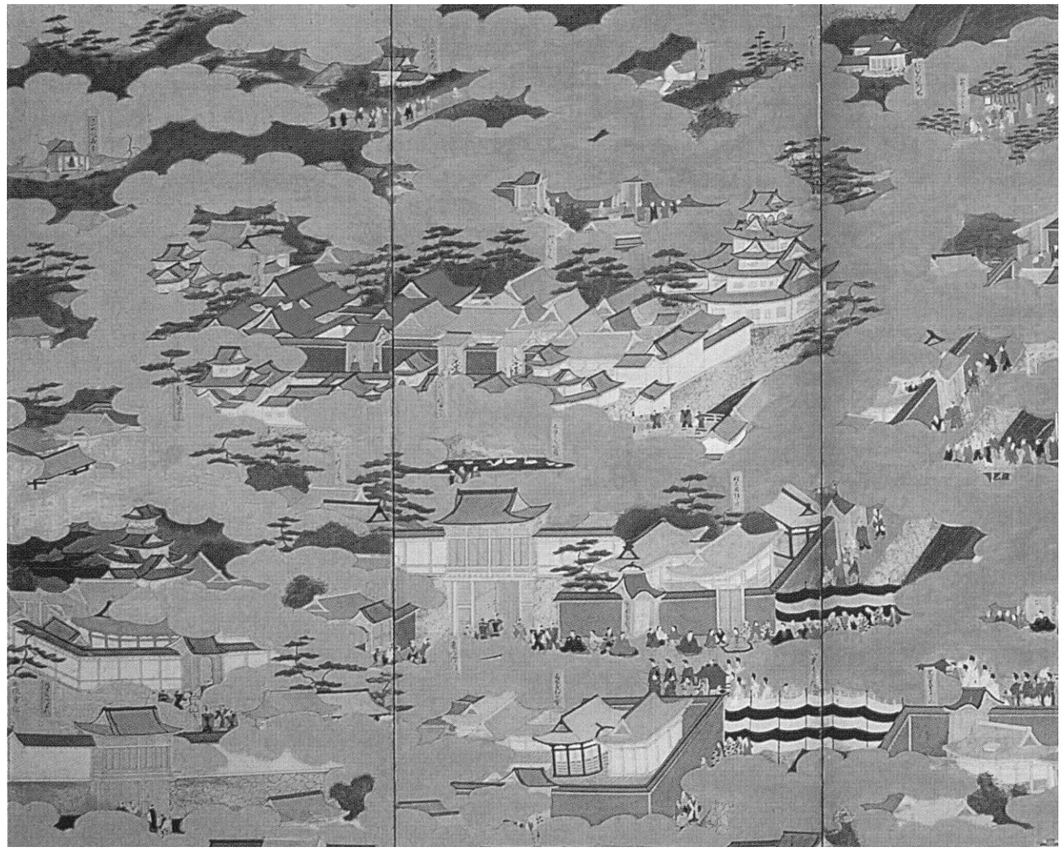


図５　『洛中洛外図屏風』（部分　尼崎市教育委員会蔵）

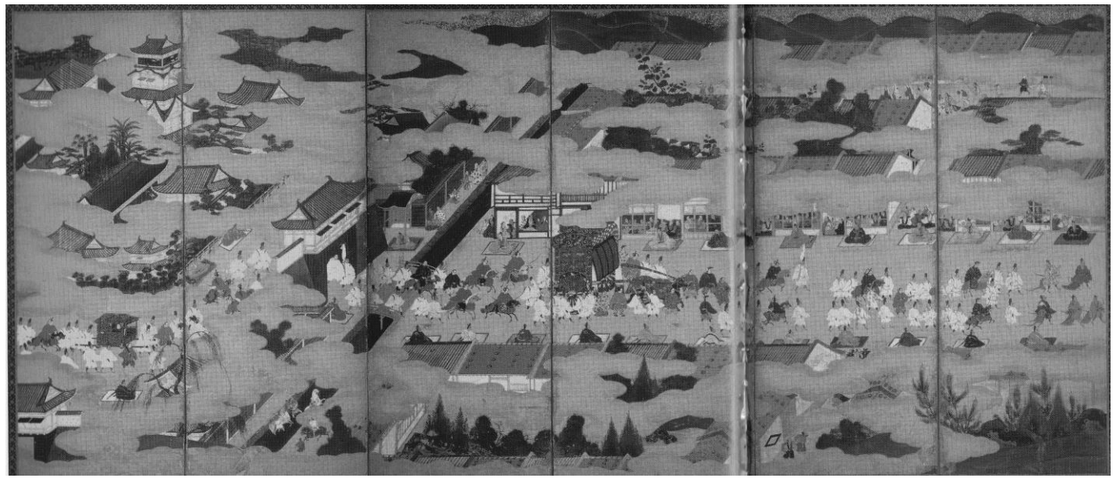


図６　『御所参内・聚楽行幸図屏風』（部分　個人蔵・上越市立総合博物館寄託）

３．聚楽第の遺跡調査と出土遺物

・城郭中枢部

本丸東堀・北之丸北堀・本丸南堀・西之丸南堀の発見

本丸東堀埋土から大量の金箔瓦が出土

試掘・立会調査成果の集成による内郭堀跡の復元

小面積の調査に基づく堀跡の復元への疑問

表面波探査による堀跡復元案の提示

図７　本丸東堀の調査

図８　本丸東堀出土金箔瓦

図９　本丸南堀の調査

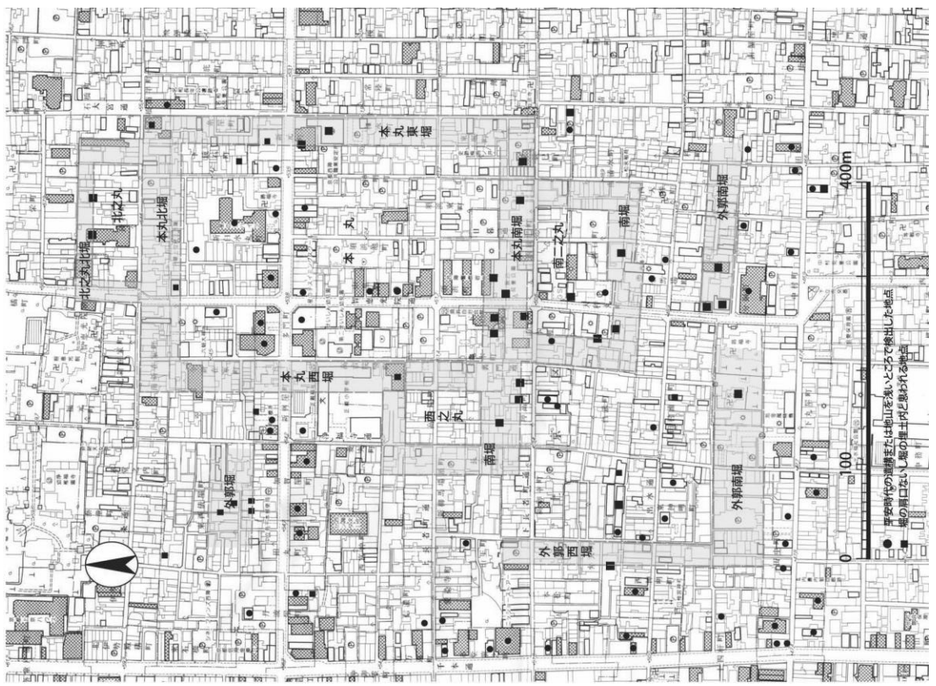


図10　聚楽第跡調査地点および復元図【馬瀬智光氏作成】（『京都　秀吉の時代』2010）

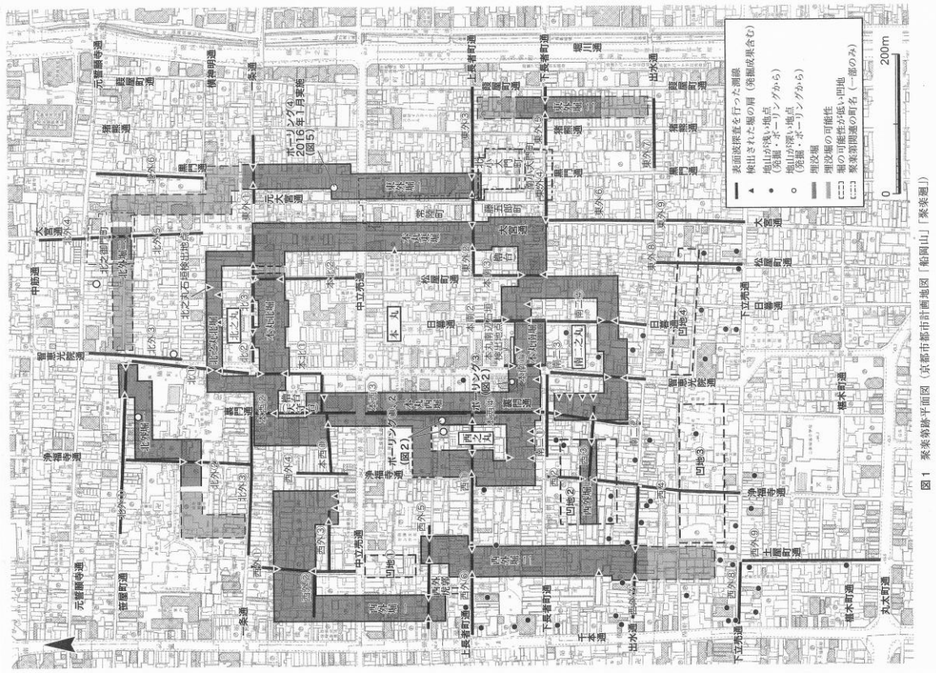


図11　聚楽第跡平面図【古川匠氏ほか作成】（古川・釜井ほか　2018）

資料５

・武家屋敷

中枢部東側を中心に多数の武家屋敷が造営される

大規模な塀・堀や門跡などを検出

中立売通沿いを中心に金箔瓦・家紋瓦が出土

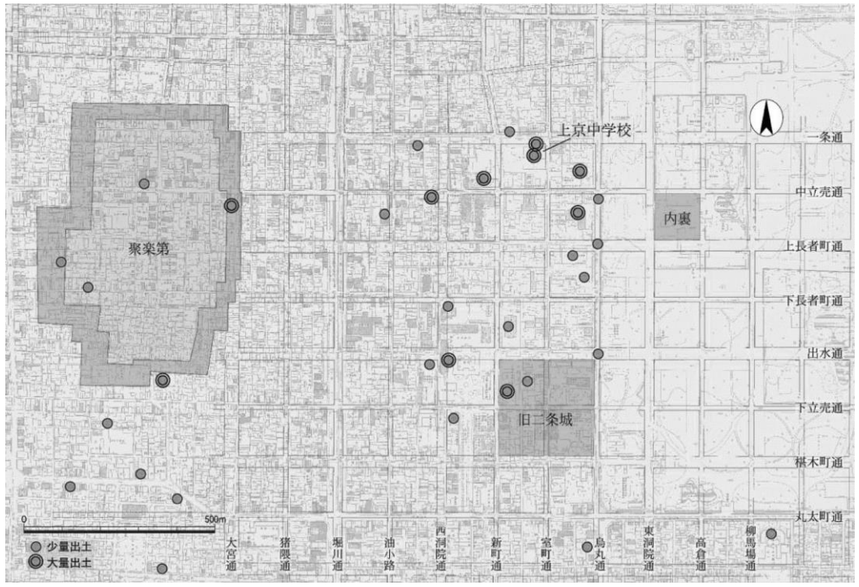


図12　金箔瓦出土地点位置図（上村和直「考古資料館へ行ってみよう　金箔瓦の謎」『リーフレット京都』№188　2004年）

図13　武家屋敷の調査①（梅川　1986）

図14　武家屋敷の調査②（本　1993）

図15　武家屋敷の調査③（鈴木・山本　1997）

資料６

・聚楽第の構造の変遷

内郭北之丸の増築

外郭周辺の屋敷地替え

中立売通沿いの屋敷地替え（町屋から武家屋敷へ）

・廃絶後の聚楽第

ゴミ捨て場となる堀跡

跡地の再開発＝市街地化

聚楽土の土取り

図16　聚楽第の堀跡『洛中洛外図屏風』（部分　歴博Ｄ本）

聚楽土の土取穴（江戸時代）

４．今に残る聚楽第の痕跡

・現地のようす

北之丸周辺

西之丸周辺

本丸周辺

南二之丸・南濠周辺

東堀から武家屋敷

・移築の伝承がある建造物

大徳寺唐門

妙覚寺大門

西本願寺飛雲閣・唐門

・慶長期二条城と聚楽第

資料７　　引用・参考文献

・絵画資料

辻維雄「聚楽第図屏風について」『國華』871号　1964年

井渓明「聚楽第行幸図について」『館報』Ⅷ　堺市博物館　1988年

伏谷優子「聚楽第と聚楽第行幸が描かれた洛中洛外図について」『文化史学の挑戦』思文閣出版2005年

狩野博幸『秀吉の御所参内・聚楽第行幸図屏風』青幻舎　2010年

名古屋市博物館『変革のとき　桃山』　2010年

『御所参内・聚楽第行幸図屏風学術調査報告』上越市教育委員会　2012年

『京を描くー洛中洛外図の時代ー』京都府立京都文化博物館　2015年

・遺跡調査

西田直二郎「聚楽第遺址」『京都府史蹟勝地調査会報告』第１冊　1920年

玉村登志夫「聚楽第跡立会調査概要」『平安宮跡』京都市埋蔵文化財年次報告1974－Ⅰ　京都市文化観光局 1975年

梅川光隆「平安宮内裏」『平安京跡発掘調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局　1986年

本弥八郎「平安京左京北辺三坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋文研 1993年

森島康雄「平安京跡（聚楽第跡）発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第54冊(財)京都府埋文センター 1993年

鈴木廣司・山本雅和「平安京左京北辺三坊」『平成７年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋文研 1997年

馬瀬智光「平安宮跡・聚楽第跡 №27・№60」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成９年度』京都市文化市民局 1998年

馬瀬智光「平安宮梨本跡・聚楽第跡 №１」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年

古川匠ほか「平安宮跡・聚楽第跡」『京都府遺跡調査報告集』第156冊（財）京都府埋文センター　2013年

・概説・復元案など

内藤昌ほか「聚楽第－武家地の建築(近世都市図屏風の建築的研究)」『日本建築学会論文報告集』180　1971年

桜井成廣『豊臣秀吉の居城－聚楽第伏見城篇－』日本城郭資料館出版会　1971年

足利健亮「聚楽第城下町と二条城城下町の差異」『中近世都市の歴史地理』地人書房　1984年

森島康雄「聚楽第と城下町の瓦」『織豊城郭研究』創刊号　織豊期城郭研究会　1994年

森島康雄「聚楽第周辺の金箔瓦」『京都府埋蔵文化財論集』第３集（財）京都府埋文センター　1996年

『豊臣秀吉と京都－聚楽第・御土居と伏見城』文理閣　2001年

馬瀬智光「聚楽第跡の復元－考古学的考察－」『古代文化』57-2　2005年

馬瀬智光編『京の城－洛中洛外の城郭－　京都市文化財ブックス第20集』京都市文化市民局　2006年

『京都　秀吉の時代』ユニプラン　2010年

森島康雄「天下人の政庁(聚楽第)」『京都府埋蔵文化財情報』第111号(財)京都府埋文センター　2010年

加藤繁生「聚楽第の石垣（１）～（３）」『史跡と美術』第83輯７・10、第84輯３　2014～2015年

山本雅和「聚楽第の遺跡と絵画資料」『日本古代・中世都市論』吉川弘文館　2016年

馬瀬智光編『天下人の城　京都市文化財ブックス第31集』京都市文化市民局　2017年

古川匠・釜井俊孝ほか「中近世城郭研究における表面は探査法の活用」『日本考古学』第45号　2018年

山田邦和「聚楽第復元への試論」『実証の考古学－松藤和人先生退職記念論集－』2018年